

(別紙様式2)

普及指導員調査研究報告書

課題名：キウイフルーツ「東京ゴールド」導入に向けた栽培管理方法の検証

所属名：萩農林水産事務所

担当者氏名：吉本 央、岡崎仁、藤山昌三

<活動事例の要旨>

阿武町の法人で導入されたキウイフルーツ「東京ゴールド」について、品種特性に応じた当地域の栽培管理を実施し、収量性及び果実品質を検証した。

1 普及活動の課題・目標

阿武町では昭和53年からキウイフルーツ栽培に取り組んできたが、近年は高齢化等により産地の縮小が懸念されている。

こうした中、ほ場整備を契機としてキウイフルーツ栽培を主とする法人が設立され、労力分散を目的に「東京ゴールド」が導入された。

そこで、本品種について、当地域に適した栽培管理を実施し、収量性及び果実品質を調査することで、実情に応じた法人経営試算の作成の資とする。

2 普及活動の内容

(1) 調査圃場

阿武町奈古地区（調査ほ場）

(2) 調査内容

ア 供試品種

「東京ゴールド」（8年生）

イ 調査項目、方法

(ア) 収量性の検証

当地域における栽培管理を実施し、果実重、収穫個数、収量を調査した。

【栽培管理方法】

樹形：一文字整枝 結果母枝長：原則20cm 交配方法：溶液受粉

摘果：3果/中長果枝、1～2果/短果枝 肥大促進：フルメット処理

(イ) 積算温度に基づく収穫時期別の果実品質の確認

ほ場の地上1.8mにデータロガー（おんどとり）を設置し、気温データを収集した。

満開日は5月15日とした。

東京都農林総合研究センターでは、「東京ゴールド」の収穫開始適期の判断基準を、追熟前の果実糖度10%以上、収穫時期の目安を満開後積算温度で3,700～3,800℃・日としている。

一方、萩アメダスデータを用いた過去の調査では、この範囲では糖度が10%に達しなかったため、本試験では3,746℃・日、3,956℃・日、4,125℃・日の3水準で収穫し、果実重及び糖度（収穫時、追熟時、貯蔵後追熟時）を調査した。

(3) 調査結果

ア 収量性の検証

満開期は5月15日で、交配作業は5月15日から18日に実施した。摘果、フルメット処理は6月6日に行った。

主枝長は6m、結果枝長は片側1.5mで樹冠面積は18㎡であった。

収穫は11月14日に実施した。果実重は108.4gでやや大玉であった。

収穫個数は223個、1樹当たり収量は24.2kgであった。

イ 積算温度に基づく収穫時期別の果実品質

収穫時の糖度は、3,746℃・日で5.3%、3,956℃・日で6.9%といずれも10%未満であったが、4,125℃・日では11.1%と10%を上回った。

追熟後の糖度は、いずれの収穫時期においても目標である15%に達しなかった。

また、各収穫時期において、貯蔵期間の違いによる追熟後糖度の差は大きくなかった(表1)。

表1 収穫時期別の果実品質

収穫日	開花後の積算温度(℃・日)	果実重(g)	糖度(Brix%)			
			収穫時	追熟時	1ヶ月貯蔵後追熟時	2ヶ月貯蔵後追熟時
10/17	3,746	107.1	5.3	13.7	13.5	13.5
10/31	3,956	102.7	6.9	13.9	14.2	14.1
11/14	4,125	109.1	11.1	14.4	14.8	14.1

3 普及活動の成果

(1) 収量性の検証

ほ場整備園地では「東京ゴールド」を植栽間隔3m×6mで定植する予定であり、本調査結果から単収は1,342kg/10aと試算された。

(2) 積算温度に基づく収穫時期別の果実品質

今年の気象条件では、11月14日の収穫で収穫時の果実糖度は11.1%であったが、追熟後も目標糖度15%に達せず、全体的に果実糖度が低い年であったと考えられた。

また、当地での既存品種である「ヘイワード」は11月8日から収穫が始まり、収穫時期が重なることが明らかとなった。

4 今後の普及活動に向けて

(1) 栽培マニュアルの作成

本調査結果を生産者と共有し、本品種に適した栽培管理について検討を進めるとともに、栽培マニュアルを作成する。

(2) 経営試算の修正

「東京ゴールド」の収量データを基に、法人における経営試算の見直しを検討する。